



いけがみ

令和4年 11月 28日
和泉市立池上小学校
校長 松田昌生

【学校教育目標】 人間性豊かな心身ともにたくましい社会人になるための基盤を育成する
《めざす子ども像》 ○考える子 ○やさしい子 ○元気な子

〒594-0083 和泉市池上町三丁目14番45号 TEL 0725-45-3840 FAX 0725-45-3850

美しい言葉

「心の教育が大事」ということはわかっていますが、心を育てるとは、どういうことをするのかというのは大きな課題です。

著名な教育者である大村はま先生は『心の教育は言葉の教育である』と言い切られます。学校も「言葉遣い」については注意深く指導していきたいものだと考えています。

職員室に用事がある時の「〇〇先生いらっしゃいますか」や給食の受け渡しの時に「ありがとうございます」と言える子が随分増えてきました。このような子どもを増やしていきたいものです。

一方、子どもは深く考えもせず、ちょっと腹立たしいことがあるだけで相手を傷つける言葉を不用意に発することもあります。

例えば「ウザい」「ダサい」「キショい」などですが、エスカレートすると「死ぬ」という言葉を重大な言葉とは認識せず発してしまう現実があります。こういう言葉は、相手の心を大きく傷つけてしまうことになるので、決して許すことのできない言葉です。学校現場では、その都度指導していますし、長期的な展望に立って道徳教育や人権教育を実践しています。

しかし、教員や大人の目が離れた場で、そんな言葉が発せられている事案があります。言葉を受けた子の心は大きく傷ついています。そんな情報が入るたびに個別指導や全体指導を繰り返しています。ただ、すぐに完全になくならないのが悩ましいところです。成長の過程の中にある子どもなので、1回言い聞かせたから正しい行動に変わるということではないかもしれません。しかし決して誤った言葉遣いを容認していることではありません。「良いは良い」「ダメはダメ」という指導をあきらめず、今後も積み重ねていきます。

また、子どもたちにとって望ましい言語環境を整えていくことは、学校教育でも家庭教育でも重要です。

社会の大人の言葉遣いや家庭での言葉遣いが、子どもに与える影響大であります。子どもたちは、周りの大人が使う言葉を吸収して語彙を増やしていきます。見本となる大人が、人を悲しませてしまう言葉や傷つける言葉に敏感になって、時と場所や状況にふさわしい言葉を遣っていくことが大切なのだろうと思います。

また教育に携わる私たちも、美しい言葉を遣うことを常に念頭に置きたいものだと考えています。

最後に「言葉」について私のお気に入りの文や詩を紹介します。

- ・「美しい心は美しい言葉から生まれる」 (土屋 秀宇)
- ・言葉をもって人は人になった。言葉は人の人であるしるしである。言葉を育てることは心を育てること、人を育てること、教育そのものである。

(大村 はま)



修学旅行に行ってきました！

原爆ドームで平和学習をし、宮島で水族館やお買い物で大いに楽しみました。



秋みつけ 1, 2年生が富秋中学校生と落ち葉や木の実ひろいをしました。



PTA 作品展 富秋中学校区 PTA は、ペーパークラフトの作品を展示しました。

下校後や休日の遊びについて

家庭での遊び方で「ゲームばかり」よりも「公園や外で友達と元気よく遊んでいる」ことは歓迎すべきことかもしれません。ただ最近、公共の公園などで玩具や自転車を使った危ない遊び、お菓子ゴミの散らかし、近隣への騒音迷惑、他の学校とのトラブルなどが発生しています。学校でも全体指導や個別指導を繰り返し行っています。ご家庭でもお子様への注意喚起をお願いします。